

ヘブ林的省略法の実際

●創世記 3 章 22 節は、23 節で人がエデンの園から追放された理由が記されている箇所です。この箇所にはヘブ林的修辭法としての**省略法**を見ることができます。まずは、この箇所(創 3:22)をいろいろな聖書で見つてみることにします。

【新改訳改訂第 3 版】

神である【主】は仰せられた。「見よ。人はわれわれのひとりようになり、善悪を知るようになった。今、彼が、手を伸ばし、いのちの木からも取って食べ、永遠に生きないように。」

【口語訳】

主なる神は言われた、「見よ、人はわれわれのひとりようになり、善悪を知るものとなった。彼は手を伸ばし、命の木からも取って食べ、永久に生きるかも知れない。」

【新共同訳】

主なる神は言われた。「人は我々の一人のように、善悪を知る者となった。今は、手を伸ばして命の木からも取って食べ、永遠に生きる者となるおそれがある。」

【岩波訳】

神ヤハウェは言った、「みよ、人はわれらの一人のように、善悪を知るようになった。いまにも彼は手をのばし、生命の木からも(実を)取って食べ、永遠に生きることになるかも知れない。」

【フランシスコ会訳】

神ヤーウエは、「見よ、人は善悪を知り、われわれのひとりようになった。さて、人は生命(いのち)の樹の実も食べ、いつまでも生きるであろうから、かれが手を伸ばしてこれをとらないように—」と言われて、

【関根訳】

さてヤハウェ神が言われるのに、「御覧、人はわれわれの一人と同じように善も悪も知るようになった。今度は手を伸ばして生命(いのち)の樹から取って食べて、永久に生きるようになるかも知れない。」

【ATD】

そしてヤハウェ神は言われた。「見よ、人は今や善と悪を知り、われわれの一人ようになった。彼が手を伸ばし、命の木からも取って食べ、永遠に生きることがないように。」

【尾山訳】

主なる神は、こう仰せられた。「人は不十分ながらも善悪を知るようになった。今度はいのちの木にまで手を伸ばし、いのちの木からその実を取って食べることがないように。」

●「～するといけないから」、「～ないように」、「～するかも知れない」という**否定の接続詞「ペン」(פֶּן)**が他の語彙にも掛かり、この節全体を決定づけています。**否定の接続詞「ペン」(פֶּן)**以下の原文の構文は、以下の通り、とてもきれいに整っています。

(פֶּן)は省略されています。

פְּנֵי־יְשׁוּלַח יָדוֹ וּלְקַח גַּם מִעֵץ הַתַּיִם וְאָכַל וְנָתַי לְעֵלָם

יָדוֹ פְּנֵי־יְשׁוּלַח

彼の手を 彼が伸ばすといけないから

מִעֵץ הַתַּיִם גַּם (פֶּן-)וּלְקַח

そのいのちの木から ~も また彼が取るといけないから

(פֶּן-)וְאָכַל

また彼が食べるといけないから

לְעֵלָם (פֶּן-)וְנָתַי

永遠に そして、生きるといけないから